

日本気象学会1998年度春季大会の告示

1. 期 日：1998年5月27日(水)～29日(金)
2. 会 場：気象庁およびKKRホテル東京(竹橋会館)
3. 研究発表

今大会においては、昨年の春季大会と同じく、一般の発表はすべてポスターとし、ポスター1件につき1分以内の概要紹介を口頭発表会場で行う(下記「ポスターセッションの方法」参照)。その他に、6つの専門分科会を実施する。専門分科会では十分な時間をかけた口頭発表をおこなう。専門分科会のテーマは公募され、講演企画委員会の審議によって以下のように決定された(下記「講演申込要領」参照)。

講演申込方法については「講演申込要領」(下記)参照。

4. シンポジウム

大会第2日(5月28日)に開催予定。テーマは「予

測可能性—カオスへの挑戦—」。

5. 大会参加費、懇親会費

郵便振込による前納または当日受付による(前納は本号末の振込用紙をご利用ください)。大会当日は混雑しますので、極力前納するようお願いいたします。

金額は以下の通り。

大会参加費：

	一般	学生
前納	2,000円	1,000円
当日払	3,000円	2,000円

懇親会費：

	一般	学生
前納	3,000円	2,500円
当日払	4,000円	3,000円

なお懇親会は大会第2日(5月28日)夕刻に開催予定。

講演申込要領

1. 発表の種類

(1)上記の通り、一般のポスター発表と専門分科会における口頭発表の2種類となる。

(2)専門分科会へ申し込まれた講演は、コンピーナーの判断によって専門分科会への採否が決定される。専門分科会に採用されなかった講演は、原則として一般のポスター発表へ変更となる。ただし、申込みの時点で申し出れば(申込用紙に選択欄あり)、不採用時に講演をキャンセルすることもできる。

2. 発表件数の制限

ポスター発表については、限りのあるスペースでできるだけ広い分野の発表をしていただくため、1講演者について異なるテーマのもの2件以内とする。この制限に抵触する申込みがあった場合や専門分科会からの種目変更によって制限に抵触することになった場合には、講演企画委員会が適切に処置する。

3. 申込方法

(1)ポスターへの申込

- ・本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて講演企画委員会に送付する。
- [ポスターは多数の応募があることが予想されます。

ポスターセッションを的確に編成するために、申込用紙にキーワードの記入をお願いします。]

- ・申込期限：1998年2月27日(金) 必着(送付先)

〒305-0052 つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

講演企画委員会(小泉 耕)

(2)専門分科会への申込

- ・本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて講演企画委員会に、また両者のコピーを各分科会の代表者に送付する(送付先は下記を参照)。

- ・申込期限：1998年2月27日(金) 必着(原本送付先)

〒305-0052 つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

講演企画委員会(小泉 耕)

(コピー送付先)

- ①中層大気の年々変動とその上下結合における役割(略称：中層)

〒606-8224 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科

地球惑星科学専攻地球物理学教室

余田成男
FAX: 075-721-9249
E-mail: yoden@kugi.kyoto-u.ac.jp

②雷放電 (その発生機構と防御) (略称: 雷)

〒565-0871 吹田市山田丘2-1
大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻
河崎善一郎

③霧研究の現状と将来 (略称: 霧)

〒305-0052 つくば市長峰1-1
気象研究所環境・応用気象研究部
山本 哲
TEL: 0298(53)8619
FAX: 0298(55)7240
E-mail: infofog@mri-jma.go.jp

④惑星と地球の大気力学 (略称: 力学)

〒113-0032 文京区弥生2-11-16
東京大学理学系研究科
地球惑星物理学教室
松田佳久

⑤プロットスケールの陸面過程 (略称: 陸面)

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学理学研究科地球物理学専攻
山崎 剛

⑥北極域オゾン層破壊とその影響 (略称: オゾン)

〒305-0053 つくば市小野川16-2
国立環境研究所
中根英昭

4. その他

- (1) 講演者索引を作成するため、申込用紙には講演者の姓名とそのローマ字表記を明記して下さい。

ポスター・セッションの方法

1. ポスター・セッションは大会期間各日の午前中に行う予定である。1回のセッションの時間は、約1時間の概要紹介の後、1時間の発表とする。ポスターセッションの時間中は専門分科会は行われぬ。
2. 概要紹介は、聴衆ができるだけ幅広い分野の発表に触れることができるよう、応募件数に応じて1~2会場で行う。
3. 概要紹介の持ち時間は1分で、OHPを1枚程度用いることができる。
4. 各講演者は、概要紹介の後ポスターの前で説明を行うが、ポスターの前にいなければならない時間(拘束時間)は1時間のうち前後半いずれか30分とする。
5. ポスターの掲示場所はプログラムに記載される予定である。ポスターの掲示・撤去は講演者自身が行う。なお掲示に必要な釘またはテープは各自で用意する。
6. ポスターには講演題目・講演者名を明記しておく。
7. 掲示板は縦90 cm×横180 cm程度であるが、会場の広さ及び掲示板の数の制約から、ポスター申込数が多い場合は1人当たりの掲示面積がこれより狭くなることがある。なおポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べても良い。

専門分科会の概要紹介

1998年春季大会では下記の通り、6つの専門分科会が開かれます。

①テーマ: 中層大気の年々変動とその上下結合における役割

趣旨: WCRPの成層圏気候影響研究計画 (SPARC) のサブ・プログラムとして「QBOとその成層圏-対流圏カップリングにおける役割」(代表: 廣田・Baldwin) がスタートした。本分科会では、QBOのみならず成層圏突然昇温現象の有無など顕著な中層大気の年々変動

の実態を把握し、その成層圏-対流圏あるいは成層圏-中間圏-熱圏のカップリングにおける役割を議論する。気象要素の統計解析・力学解析、大気大循環モデルや力学モデルを用いた数値実験、理論的な概念モデルの提案など、多様なアプローチを有機的に結び付けて、今日的な認識を深める機会としたい。

招待講演として、次の2件を予定している。

- Karin Labitzke 京都大学客員教授
“Trends and Variability in the Stratosphere”

・宮原三郎 九州大学教授

「GCMによる中層大気シミュレーションとその問題点」

コンピーナー：廣田 勇(京都大学大学院理学研究科)

FAX：075-721-9249

E-mail：hirota@kugi.kyoto-u.ac.jp

余田成男(京都大学大学院理学研究科)

FAX：075-721-9249

E-mail：yoden@kugi.kyoto-u.ac.jp

②テーマ：雷放電(その発生機構と防御)

趣旨：近年、エレクトロニクスの発達に伴う雷観測技術の進歩には、眼を見張らされるものがある。それらは国の内外で開発された、広域雷活動監視装置(LLP, LPATS, 及びSAFIR)、雷撃進展観測光学系(ALPS)、及び干渉計雲内放電路可視化装置等々である。一方ドップラーレーダ、二重偏波レーダ等も現実に運用の段階に入り、これまで蓄積してきた各種雷観測技術と併せて、総合的観点から雷発生機構を解明するための環境は着実に整備されつつある。反面、例えば今年9月初旬に茨城県で起こった落雷による数名のゴルファーの死亡事故に見られるように、依然として雷災害が後を絶たない状況下にあることも事実である。そこで今回提案する分科会は、単に「雷放電」現象に捕らわれることなく、雲物理、大気電気等広く気象学的見地も考慮に入れた活発な議論の場と今後の研究方向を模索する場を目的とする。

招待講演として、雷防護の権威である北川信一郎氏を予定している。

コンピーナー：河崎善一郎(大阪大学大学院工学研究科)、道本光一郎(防衛庁)、仲野 賛(豊田工業高等学校)

③テーマ：霧研究の現状と将来

趣旨：霧は、視程を悪化させ日射を遮り、交通や農業など人間活動に障害を与えるものとして、古くから強い関心が持たれてきた。近年は、これらに酸性霧などの環境問題が加わる一方、砂漠など少雨地域での水資源や森林などでの生態系の維持に霧がプラスの役割を果たしている点にも注目が集まっている。現在、大気物理、大気化学、気象予測、応用気象、人工制御などの広い分野において、霧に関連する研究が行われている。

こうした研究をさらに深めるには、個別分野における研究の成果を総合的な観点から捉え直す作業が必要である。本分科会は、第1に各分野で霧に関する問題

に取り組んでいる研究者や専門家と広く霧に関心を持つ人々とが一堂に会すること、第2にこれまでの霧研究の成果を整理し、今後どのように調査・研究を進めて行くべきかを明確にして将来の展望を切り開くことを目標とする。

霧に関連する広範な分野からの講演をお願いしたい。

コンピーナー：澤井哲滋・水野 量(気象大学校)、皆巳幸也(石川県農業短期大学)、山本 哲(気象研究所)

④テーマ：惑星と地球の大気力学

趣旨：惑星探査衛星の観測結果に基づき、惑星気象学の研究が既に色々なされてきたが、火星の砂嵐や金星の高速東西流など、未解明の問題が非常に多い。従って、そのメカニズムを解明する理論的、数値実験的研究の発展が必要である。また、惑星の大気力学の進展に伴って、地球の力学の再検討や発展も、惑星気象学の総合的、統一的理解のために、是非必要である。この分科会では、惑星の個々の気象現象の問題にとどまらず、その流体力学の基礎や地球の対流圏の力学的問題を取り上げ、地球を含む惑星の大気力学の総合的理解に向けて議論を深めたい。

コンピーナー：伊藤久徳(和歌山大学教育学部)、松田佳久(東京大学理学系研究科)、林 祥介(東京大学数理科学研究科)

⑤テーマ：プロットスケールの陸面過程

趣旨：陸面と大気間の物質およびエネルギーの交換過程について、様々な研究者によって観測が行われ、また、モデル化が進められている。研究の主眼は気候、生物・生態学的な目標など様々であろうが、根底には共通の問題点が潜んでいるはずである。そこで、本分科会ではプロットスケールに話題を絞り、観測・モデリングの直面している具体的な問題を深く議論したい。陸面としては裸地・植生地・積雪地・湖沼(湿地を含む)を念頭におく。二酸化炭素・メタンなどの微量気体の交換に関する発表を歓迎する。スケールアップについては大問題で重要だが、別の機会にゆずる。

コンピーナー：山崎 剛(東北大学理学研究科)、渡辺力(森林総合研究所)、馬淵和雄(気象研究所)、玉川一郎(名古屋大学大気水圏科学研究所)

⑥テーマ：北極域オゾン層破壊とその影響

趣旨：1990年代に入って、北極域の冬-春季のオゾン層破壊が顕著になってきており、特に1997年の春には4月上旬まで「南極オゾンホール」のような構造が、国産衛星「みどり(ADEOS)」搭載のTOMSのオゾン全

量マップなどに明瞭に現れた。このようなオゾン層破壊をもたらす成層圏の輸送と化学について、衛星データ、地上からの気球・遠隔計測データ、気象解析、化学輸送モデルなどを用いて集中的に検討する機会としたい。

セッションの構成としては、一般講演を組み入れる形ではなく、20~25分程度の講演と5分程度の討論時間を組み合わせた、招待講演と2件程度の公募講演で構成することによって、最近の北極域のオゾン層破壊の全体についてのまとまった討論と理解が可能になるようにしたい。

(招待講演案)

1) 最近の北極域オゾン破壊をもたらす気象場 (塩谷

雅人：北海道大学大学院地球環境科学研究科)

2) オゾン層破壊の全体像 (気象庁オゾン層情報センター)

3) 北極圏オゾン層破壊の輸送と化学

・ILAS 関連データに基づいて (笹野泰弘または神沢博：国立環境研究所)

・東アジア域データに基づいて (中根英昭：国立環境研究所)

・カナダ北極域データに基づいて (牧野行雄：気象研究所)

・極域成層圏雲のモデル化 (柴田 隆：名古屋大学太陽地球環境研究所)

コンピーナー：中根英昭 (国立環境研究所)

講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は、以下の要領で予稿集原稿を作成し、本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿用紙：1件1枚
2. 用紙：A4判の白紙を使用する。その他の規格の用紙を使用しないこと。
3. 記入方法：A4判用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けする。原稿はダイレクト製版される。
4. 図および表：写真や図表には折り目が入らないようにする。階調のある写真や図は、階調度が落ちる場合がある。
5. インク：ワープロ、手書きの場合とも、墨または濃い黒色インクを使う。黒以外の色のインクや鉛筆を使用しないこと。
6. 配置 (付図参照)：記載範囲は縦250 mm×横175 mm以内とし、上部には20 mmの余白をとる。最上段に標題，その下に著者と所属を書き，本文をその下につける。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつける。標題から本文までの間隔は25~30 mmとする。本文はなるべく2段組 (左半

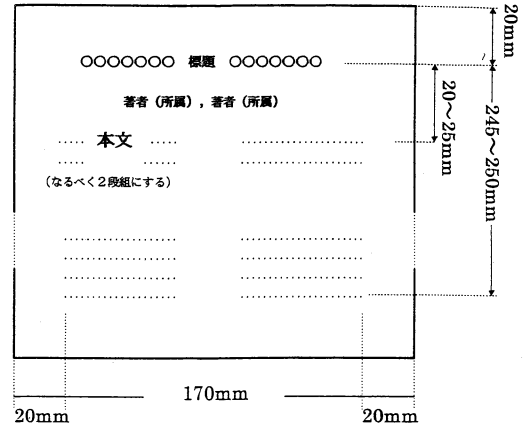


図 A4判用紙による予稿原稿の作成要領。

分→右半分)にする。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。
8. 送付：予稿集原稿を細かく折りたたまないこと(2つ折りは可)。送付先・送付期限は「講演申込要領」(901ページ)参照。

非会員の大会講演について

ここ数年、気象学会の春・秋の大会では、会員でない人が講演を行う例があるようです。

気象学会の定款では“会員は、次の特典を有する。(中略)2. この法人の催す各種の学術的会合に参加す

ること。”(第8条)となっており、その中には当然、大会における講演も含まれます。その一方、細則では“講演企画委員会または大会委員会が承認した場合は、会員でない者も、学術的会合において講演を行うこと

ができる”(第12条)と規定されています。

講演企画委員会では、実態をつかんだ上で、会員各位のご意見を参考にしながら、非会員の講演について“承認”の具体的な規定を作っていくと考えており、前回に引き続き以下のような措置をとります。

この件についてのご意見を、講演企画委員会(事務局は気象研究所・小泉)までお寄せ下さい。

1. 非会員による講演の実態を把握するため、講演申込用紙に会員番号の記入欄を設ける。

2. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める。
3. ただし専門分科会に関しては、各コンピーナーの判断にゆだねる。

なお上記の措置は、あくまでも暫定的なものであり、次回以降も継続される保証はありません。講演企画委員会としては、大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう望みます。

1997年11月講演企画委員会

研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。具体的には、大会プログラムへの掲載、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：大会講演と同じ

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容

今年お世話になったレフェリーの方々 (1997年)

青木 孝	青梨 和正	赤枝 健治	謝 尚平	高橋 俊二	高橋 暢宏
浅枝 隆	石原 正仁	一ノ瀬 俊明	谷本 陽一	田畑 明	玉川 一郎
井上 君夫	岩崎 博之	上野 充	堤 之智	露木 義	土器屋由紀子
牛山 素行	大西 晴夫	大場 和彦	中井 専人	中澤 高清	中田 隆一
大和田 道雄	小倉 義光	尾瀬 智昭	中村 晃三	中村 一	西村 照幸
梶川 正弘	加藤 央之	金久 博忠	西本 洋相	新田 尚	新田 勅
蒲地 政文	釜堀 弘隆	川村 隆一	林 陽生	福岡 義隆	藤谷 徳之助
菊地 勝弘	北川 信一郎	楠 研一	本田 明治	松田 佳久	松山 洋
栗田 進	桑形 恒男	小出 寛	三上 正男	水野 量	道本 光一郎
小柴 厚	小林 哲夫	小林 文明	森 修一	山川 修治	山本 晋
近藤 裕昭	佐々木 徹	佐藤 晋介	古門 洋	吉崎 正憲	米谷 恒春
里村 雄彦	澤井 哲滋	嶋村 克	和田 章義		(敬称略)